

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2274100391
法人名	社会福祉法人 静岡和洋福祉会
事業所名	グループホーム 浜屋
所在地 (電話番号)	静岡県駿河区中島2566-6 054-286-2668

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年2月5日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算	7.2

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	2名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84.2歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡済生会病院 (歯科を含む)
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

女子高福祉科の実習施設として隣接の特別養護老人ホームが設立され、職員や実習生のステップアップの場として開設されたグループホームである。敢えてバリアフリーでなく普通の生活者の視点で創意工夫された建物は、施設の概念から離れ、建物のゆとりが人の気持ちのゆとりにつながることを改めて感じる事が出来た。当然のことながら職員は相応しいケアに誇りを持って取り組んでおり、利用者一人一人の力を生活に生かし、家族参加型の行事を多用することにより家族同志の交流や運営にも参加しやすい状況を作っている。利用者の外出には法人の車を利用し、職員研修には講師も依頼できる恵まれた環境はどのホームにも当てはまることではないが、だからこそ此处でしか出来ないことに挑戦する楽しみがある。熱意を持った管理者や職員がこれからのように「浜屋」を運営してゆくか興味をもって見守りたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題となった地域密着型サービスとしての理念の策定や評価への全職員での取り組み、法人バックアップによる職員育成の工夫、またヒヤリハットの収集・検討など多くの改善の跡が確認できた。運営推進会議の定期的な開催は今後の課題となった。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目を振り分けて個々に考えたことを持ち寄って会議で話し合っている。初めて目にする職員には項目の趣旨を理解することが難しかったようであるが、読み砕くとすべて基本的なことであり、日々自らが行っている介護を改めて思い返す機会となったとの意見も聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・利用者家族等をメンバーにこれまで5回開催されているが、日程の調整等により今年度は1回の開催のみで、前年度の報告や今年度の予定等について話し合われている。近隣の方など広く声かけしてホームの様子を見て頂いたり、共に過ごして頂く等報告に終始することなく参加者も楽しめるような企画での開催を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年数回の家族食事会や日帰り旅行、外食を楽しむ敬老会等毎回多くの家族参加のもとで開催されており、家族同士も親しく交流している。年1回の家族アンケートにより意見の収集・把握に努めている。日頃の様子が分かるような報告が欲しいとの意見には、職員が話し合ってお身体の様子・お気持ちの様子・行事やお知らせ」を利用者個々に担当者が記入したものを毎月届けることを考え出して実践、家族から喜ばれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	どんど焼きや夏祭り、運動会、毎月の中島浜交流会等行事や活動に積極的に参加して、地域の方々に浜屋利用者の顔を覚えてもらい、散歩や買い物の際に声を掛けて頂いている。防災訓練には近所の方が見に来てくれたり、七夕には笹を戴いたり、また、吊るし雛やお手玉を届けて頂いたり地域住民と良い交流をしている。
④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「当たり前の生活の提供と寄り添う介護」を基軸に地域密着型グループホームとしての方針「①あなたらしさを大切に、みんなで作る浜屋時間。②優しい気持ちで過ごせるように優しい気持ちでお手伝い。③ご近所と笑顔でつながる生き生き生活支えあい。」を職員で作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は額装して家族との会食会の場となる和室に掲げて利用者・家族・職員の意識付けを図っている。職員入職の際には理念を説明し全職員の方向をひとつにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、毎月保健センターが催す中島浜交流会に希望する利用者は参加しており、町内の参加者と顔見知りになって、散歩の際には声をかけあっている。町内の夏祭りや運動会等行事には必ず参加交流し、地元の人々に顔を覚えてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を良く理解し、前年評価後は職員で話し合い多くの改善に取り組んでいる。地域密着型サービスとしての理念の策定、ヒヤリハットの収集・検討などに改善の跡が確認できた。運営推進会議の定期的な開催は今後の課題となった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は1回開催されて、前年度の報告や今年度の予定等について話し合われている。	○	近隣の方などに広く声かけてホームの様子を見ていただいたり、共に過ごしていただく等報告に終始することなく参加者も楽しめるような企画での開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の生活についての相談等は必要に応じて行っているが、その他の関わりは持っていない。	○	社会資源の活用やそれに伴う意見の具申等、利用者のみならず一般の高齢者の暮らしの向上に役立てるよう行政への積極的な関わりを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	手書きでレトロなホーム便り「浜屋新聞」は温かく濃い内容でホームの雰囲気そのまま家族に伝えている。加えて「お身体の様子・・」や金銭管理報告等書面によるもの、必要に応じて電話連絡をしている。家族を含めての会食の機会も多く、台所で一緒に作業をする中で、家族関係の修復も見られる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや家族参加行事の積み重ねにより家族同士あるいは家族と職員の関係もより深まり、利用者・家族・職員交際のホーム運営がみられる。家族の要望は共に話し合っ反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間での異動は最小限に押さえている。離職も出産によるものだけである。勤務体制に不足が生じた場合には法人へヘルプを要請して業務に支障が出ないよう図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する特別養護老人ホームでの研修に参加することが出来る。毎月開催される浜屋会議における勉強会では、特養ホームの看護師や管理栄養士による救急法や栄養学についての専門的な講義や外部研修を受けた職員による報告も行われ、学ぶ機会の確保や学びの共有に努めている。	○	開所から年を経て利用者のケアも精神的なケアから身体介護や認知症介護に重さが移行しつつある。またグループホームは生活支援と介護支援の技術が共に求められることからどの職員も現状に合わせて柔軟に対応できるよう、日ごろからの研鑽をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム設立の構想を練る段階から関わった職員は、多くのホームを訪問して様々なグループホームのありようを学んできた。隣接する特養ホームやデイサービスとは日常的な交流を持ち、管理者は他法人の事業所と研修等の機会に情報交換を行ってサービスの向上に資している。	○	他事業所との交流から受ける刺激は必ずや利用者へのサービス向上につながると思われる。多くの職員が学んだり自信をつけたり出来るよう交換研修等の機会の確保が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年度、利用者の入退居は無かったが、新たに入居される場合には部屋にゆとりがあるため、お試し入居が可能である。利用者が不安な場合には、昼間をデイサービスのように過ごし、次は宿泊までと、家族と協力し合いながら徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう取り組んだ経過がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度の低い利用者も多く、利用者同士の支え合いが見られたり、職員への労いの言葉を聞くことも出来た。「浜屋新聞」には利用者がコラムニストとして毎回寄稿している。また、職員と女性利用者がお互いに料理の作り方を教え合ったりして、良好な関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員が共に暮らす中で利用者の思いを汲取るよう努めており状態の変化による意向の変更も探っている。また、訪問する家族からも情報を収集している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	連絡ノートに日々気付いたことを書き込んで状態の共有を図っている。また、毎月の会議で利用者の担当職員が状況を説明しており、それらを基に家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングからケースカンファレンスを経て身体能力や認知度の把握をしており、6ヶ月ごとに介護計画を見直している。利用者に変化が見られた場合には職員間で話し合い、適切なケアを提供しているが介護計画書の見直しまでに至っていない。		介護計画は日々のケアの基であり、利用者の意向や状態の変化に細やかに対応したものでありたい。介護計画と現場のケアが連動する仕組みづくりによって現状に即した見直しに繋がっていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時必要に応じて同行している。家族が面会に来た時はいつでも泊まれる部屋が準備されており、年に数回催される家族会には二間続きの和室が利用される。隣接する特別養護老人ホームのワゴン車を借り、利用者そろって外出もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力し合いながら入居前からのかかりつけ医に受診している。看護師が毎日訪問して状態の把握や必要時の指示を行っており、緊急時にも対応できる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在看取りの対象となる利用者はいないが、看取りの指針は職員に配布して認識を共有している。ホーム利用開始時に利用者および家族には対応出来ることと出来ないことについて説明しており、管理者は折々に家族と意向の相互確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自立度の高い利用者が多く、言葉掛けには配慮している。失禁に対しても利用者のプライドを傷つけることの無いよう留意し、認知症といえども必要以上の介入は慎み利用者を尊重している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はホームを「家」と捉えてくれており、共に生活する人同士、他の利用者を気遣ったり、職員を労ったりする温かい雰囲気の中でそれぞれが自分を持って暮らしている。職員は利用者の状態を考慮しながら買い物や訓練、趣味等の希望が満たされるよう支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の得意な利用者が多く、盛り付けや後片付けのみならず、和え物を作ったり魚を焼いたり利用者が主体となる場面も多い。利用者と職員が会話しながらの食事は楽しいひとときであった。家族会では和室にテーブルを並べ、一昔前の大家族の物日のような様が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が毎日入浴している。ローテーションを工夫して夜間の入浴希望にも対応している。中の良い利用者は一緒の入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや興味のある物を把握し、書道や編み物など得意なこと、中国語や歴史への関心、新聞の購読や投稿欄への応募等楽しみごとへの支援をしている。また、沢山の洗濯物をおしゃべりしながら畳んだり、食後の食器拭き、朝晩の掃除など出来る仕事に積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日海岸の遊歩道を散歩しており、歩行が困難な利用者は職員とマンツーマンでホームの周りを杖で歩行訓練をしたり、特養ホームの郵便物を事務所に届けることを日課としている。また、その日の天気や体調を見て買い物やドライブ等なるべく外出を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。利用者の状況により一時的に鍵をかけていた事があったが、利用者の外へ出る理由を探りだし、携帯電話を利用することで安全に外出できるよう図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養ホームと合同の大掛かりな防災訓練が年一回行われ、町内会長の声かけで町内の役員が参加協力している。グループホーム独自の火災を想定した訓練も年一回実施している。非常食の備蓄も特養と共に準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は特別養護老人ホームの栄養士にチェックしている。現在刻み食で対応している利用者が1名である。疾患によりおやつ制限をしている利用者には淋しくないよう職員が精神的なフォローをしている。毎月の体重測定で増減が見られた場合は受診の際に報告している。水分は小まめに摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の設えから植生が眺められる洗面所まで日本家屋の趣きを取り込み、あえてバリアを残して利用者に当たり前の暮らしをして欲しいとの思いが満ちている。応接間や和室は利用者が自由に出入りして来客をもてなしてくれる。床の間には立派な生花が活けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階の居室は入り口の他に廊下へ出られる引き戸がついており、夏場は風通しが良く、冬は陽ざしを取り込むことができる。居室には家族の遺影や写真を飾ったり、物書き用の机が置かれている。好きな短歌を壁に貼り、読み上げて楽しんでいるその人らしさの溢れた居室を見せて頂いた。		